

「福富提言」～福富のよりよい未来を考える～

生徒 第3学年15名

授業者 永田 和也, 松下 憲子, 岩本 和子

場所 中3年教室

1 単元設定の理由

【単元の目標】

- 福富が抱える課題を基に、よりよい未来の実現に向けた仮説を立て、検証することを通して、地域のよさや地域資源について再認識するとともに、課題に対する解決方法について根拠を明らかにし、地域社会の一員として福富のよりよい未来の実現に向けてどのようなことができるか主体的に考え、行動しようとする態度を養う。

【生徒の実態】

- 昨年度の3年生による「生活」「野菜」「住まい」の各取組の成果と課題をふまえ、導入時には、チャレンジしたい取組として「親子交流体験」「農業体験」「SNSなどでの動画発信」などの声が挙がった。実現に至るまでの過程やメリット・デメリット、地域との連携などを深く考えていない部分もあったが、地域に出て体験することを通して、様々な視点から取組を考えることができるようになってきている。意見を出し合ったり、協力したりする姿も見られるが、明確な答えが存在しない問いに対して、グループ内で合意形成を図るには、まだ時間を要すると思われる。

【単元観】

- 本単元は、福富が抱える課題について、住環境や産業、観光、福祉など様々な視点から考え、「福富のよりよい未来」を実現するための仮説を立て、検証することに主眼をおき設定した。前年度の取組を生かし、さらに様々な面からアプローチし、検証方法の検討や専門家の方への聞き取りなど、課題に深く向き合うことを通して、解決に向けて主体的に考え行動しようとする態度が身に付くと考える。併せて、地域資源の活用を通して、福富のよさを再認識するとともに、地域に対して誇りをもち、将来にわたって他者と協働し社会に貢献しようとする姿勢を培うことのできる単元である。

【指導にあたって】

- 昨年度の取組を継承・発展させ、さらに様々な面から課題にアプローチし、実効性を高める展開
昨年度の3年生による「生活」「野菜」「住まい」各グループでの取組の成果と課題をふまえ、「福富のよりよい未来」という漠然としたテーマから焦点化した仮説を立てることができるようにする。仮説では、「なぜそう考えるのか」という根拠を明確にし、検証に説得力をもたせたい。また、取り組む課題は、一面のみでなく、観光や福祉などの様々な面と関わっていることに気付かせ、課題を多面的・多角的に捉えることで、課題解決に向けたより具体的な取組になることを実感させる。さらに、議論する場面において、アイデアのメリットやデメリットを視覚化させることで、自他の意見や考えのよさを生かしながら合意形成を図る力を身に付けさせたい。学習活動の各過程において、より適切なファシリテートに努める。
- これまでの地域学習を生かした9年間のまとめとしての「福富提言」
これまでの学習を踏まえて、福富のよりよい未来の在り方について、協働して仮説を立て、検証し、助言を生かして考えを再構築し、後輩や外部に提言する。活動を通して、分かりやすく発信する力を養わせたい。また、これまでの学びを通して身に付けた主体性や協働性を生かし、社会との関わりや自己の生き方を考えさせていきたい。

2 単元構想ストーリー

学習活動	地域との連携 体験活動・資料	生徒の意識 の流れ
<p>○昨年度の3年生が取り組んだ学習内容を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各取組の成果と課題を明らかにする。 ・課題と思われる点、現状を明確に認識するようにする。 	<p><資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の3年生の発表資料 	<p>○昨年度の取組を見ると、福富の「よりよい未来」という視点で考えられていることがよく分かる。</p> <p>○実践していくためにはさらにどうしていくとよいだろうか。</p>
<p>○各取組の成果と課題を踏まえて、新たな視点で課題とその解決方法について検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活 ・野菜 ・住まい ・さまざまな視点、立場から考えてみる。 ・個人→グループ→全体→個人の流れで考えをより深める。 <p>○今年度の「福富提言」につながるように、福富の「よりよい未来」について、考えをまとめる。</p>	<p><資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・福富町人口の推移が分かるデータ ・他市町村の地域活性化の取組が分かるもの ・「第Ⅱ期 広島中山間地域 地域振興計画」 	<p>○福富町にある資源の有効活用はできないだろうか。</p> <p>○移住する人には、福富町の魅力を分かったうえで来てほしい。</p> <p>○アクアフェスタで広報活動をするのはできないだろうか。</p> <p>○信ぴょう性を高めるためには、過去のデータなどの資料を活用して、まとめる必要があるだろう。</p>
<p>○3つのグループに分かれ、仮説を立てる。</p> <p>「～ することができれば、もっと魅力ある町づくりにつながるのではないか。」</p> <p>↓</p> <p>検証の方法を考え、取組を進める。</p> <p>○昨年度の取組をさらに深化させるためには、どういった点を強化すれば効果的か考える。</p> <p>○各取組における課題となる点を、各分野の方にお聞きし、改善を図る。</p>	<p><地域との連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・福富支所 ・道の駅 ・しゃくなげ館 ・各分野でお話を聞くことが可能な方 	<p>○自分たちの仮説が正しいか（現実的か）検証するためには、専門的な知識がある人に聞いてみるのではないかな。</p> <p>○発表してみて、改善する点に気付いた。</p> <p>○指摘をいただいた点について検討し、発表内容をさらに吟味しよう。</p>
<p>○学年内で発表を行い、評価・助言し合う。</p>		<p>○次年度に向けて、また地域にとって参考になる発信ができただろうか。</p>
<p>○学校運営協議会の方々の前で発表を行う。</p> <p>○指摘を得た点について検討し、改善を図る。</p> <p style="text-align: center;">本 時</p>		<p>○福富町で生きていく人間として、地域活性化のためにできることがないか、これからも考えていきたい。</p>
<p>○成果物を校内に掲示するとともに、発信する。（その後は福富支所等に一定期間掲示してもらう。）</p>		
<p>○「福富提言」に取り組むことで身に付いた資質・能力についてまとめ、今後の生き方に生かそうとしている。</p>		



めざす児童・生徒像

福富のよりよい未来に向けて、発展的なテーマを設定・発信する学習を通して、福富の地域に誇りをもち、地域に貢献しようとする意識を高めるとともに、仮説→検証→結論といった思考の手順を導き出し、議論したうえで合意形成をすることができる生徒

3 単元の評価観点・評価規準

評価の観点		評価規準	
		A	B
知識・技能	① 知識	○ <u>他市町村の地域活性化の取組と比較して、福富の地域活性化のための課題を理解している。</u>	○福富の地域活性化のための課題を理解している。
	② 技能	○課題をもとに検証を行い、 <u>設定した仮説に対して説得力のある結論を導き出すことができる。</u>	○課題をもとに検証を行い、設定した仮説の結論を導き出すことができる。
	③ 探究的な学習の良さの理解	○福富提言を通して身に付いた資質・能力は、福富のよりよい未来の実現に向けて、 <u>実効性の高いものとなるよう、探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。</u>	○福富提言を通して身に付いた資質・能力は、福富のよりよい未来の実現に向けて、探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。
思考・判断・表現	① 課題の設定	○ <u>福富のよりよい未来像や取組の目的を明確にし、それを実現するための具体的な仮説を設定している。</u>	○福富のよりよい未来を実現するための具体的な仮説を設定している。
	② 情報の収集	○仮説の検証に必要な情報を、 <u>幅広く効率的に収集している。</u>	○仮説の検証に必要な情報を収集している。
	③ 整理・分析	○説得力のある結論を導くために、収集した情報を <u>相互に関連付けながら整理・分析している。</u>	○説得力のある結論を導くために、収集した情報を整理・分析している。
	④ まとめ・表現	○課題に対する解決方法について、 <u>多面的・多角的に、根拠を明らかにして提言している。</u>	○課題に対する解決方法について、根拠を明らかにして、提言している。
主体的に学習に取り組む態度	① 自己理解・他者理解	○他者との意見交流を通して、 <u>福富のよりよい未来の在り方には多様性があることを認識し、それぞれの意見のよいところを生かそうとしている。</u>	○他者との意見交流を通して、福富のよりよい未来の在り方について、それぞれの意見のよいところを生かそうとしている。
	② 主体性	○設定した仮説に関する情報を自ら進んで収集し、 <u>より実効性の高い結論を導き出そうとしている。</u>	○設定した仮説に関する情報を自ら進んで収集し、結論を導き出そうとしている。
	③ 協働性	○議論をすることによって、 <u>社会的な視野での合意形成を図ろうとしている。</u>	○議論をすることによって、合意形成を図ろうとしている。
	④ 将来展望・社会参画	○地域社会の一員として、福富のよりよい未来の実現のために <u>できることを具体的に考え、行動しようとしている。</u>	○地域社会の一員として、福富のよりよい未来の実現のためにできることを考えようとしている。

4 単元計画【地域探究学習のみ（全30時間）】

小単元 (時数)	小単元の目標と主な学習内容 ◎ねらい ○学習内容	評価の観点	教科・特別活動 等との関連
1 導入・課題設定 (4時間)	<p>◎福富の課題について、様々な視点から考え、福富の「よりよい未来」について、自分なりの考えをもつことができる。</p> <p>○昨年度の取組の成果と課題をもとに、福富の課題と解決方法について意見を出し合い、交流する。</p> <p>○他地域の地域活性化の情報を収集し、参考資料とする。</p> <p>○福富の「よりよい未来」について、各自で考えた後、交流する。</p> <p>○個人の意見、昨年度の取組をもとにグループ分けをする。</p>	知①	
2 整理・分析、 情報収集、 まとめ・表現 (12時間)	<p>◎「福富提言」のテーマを各グループで決め、仮説→検証の流れに沿って、取組を進めることができる。</p> <p>○仮説の方向性を決め、検証方法を検討する。</p> <p>○情報の取捨選択や整理・分析をしながら検証を進める。また、地域調査を計画・実行する。</p> <p>○仮説に基づいて各取組を進める。</p>	思① 思②③ 主②知②	<p><道徳> C(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度</p> <p><国語> 話し合いで意見をまとめようー合意形成を目指す話し合い</p>
3 まとめ・表現 (8時間)	<p>◎今年度の取組における成果と課題について協議し、まとめることができる。</p> <p>○各取組について、グループ内で成果と課題を協議する。</p> <p>○学年内で発表を行い、成果と課題について再考する。</p> <p>○今年度の取組について、学校運営協議会の方々の前で発表を行い、取組に対しての意見をもらう。</p> <p>◎次年度の取組も視野に入れ、成果と課題を最終的にまとめる。(本時)</p>	主①③ 思④	<p><社会> 地方自治と私たち</p>
4 振り返り (6時間)	<p>◎今年度の取組についての振り返りを行い、中学1・2年生や外部に向けて「福富提言」を発信する。</p> <p>○これまでの取組をスライドにまとめる。</p> <p>○「福富提言」最終報告を発信する。</p> <p>○自己の生き方との関連を図る。</p>	主④ 知③	

5 本時の目標

今年度の取組について、様々な視点から成果と課題、次年度に向けての展望について話し合い、まとめることができる。


6 本時のルーブリック

A	B
<p><u>☆課題に対する解決方法について、多面的・多角的に、根拠を明らかにして、提言している。</u></p> <p>・○○という取組を行い、◇◇という成果があった一方で、課題の解決においては△△という部分を検証する必要がある。そのため、□□ということから取り組み、@@という部分につなげていくとよい。</p> <p>＜複数の視点から課題を見つめ、その解決方法について、根拠を明らかにして、提言している。＞</p>	<p><u>☆課題に対する解決方法について、根拠を明らかにして、提言している。</u></p> <p>・○○という取組を行ってきたが、△△という部分においては不十分なところがあるため、次年度は□□という視点をもって取り組んでいく必要がある。</p> <p>＜課題に対する解決方法について、なぜその方法を選択するのか、根拠を明らかにして、提言している。＞</p>

7 学習の流れ

学習活動と主な発問 (○)	指導上の留意事項 (◇) 評価 (☆) ◆努力を要する状況と判断した児童・生徒への指導と手立て
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> 自分たちの取組を振り返り、新たな課題や改善点を話し合うことができる。 </div>	
<p>2 今年度の取組についてグループで話し合い、まとめる。</p> <p>○今年度の成果と課題は、どのようなことだろうか。</p> <p>○次年度に向けて、伝えておかなければならないことはどのようなことだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの回収率が低かったから、実施方法を検討する必要があるのではないか？ ・地域で行われている取組がたくさんあるけど、あまり知られていないな。 	<p>◇学校運営協議会の方からいただいた意見を踏まえることで、様々な視点から振り返ることができるようにする。</p> <p>◆意見をもつことが難しい生徒には、作成した企画書や発表スライドなどを確認させ、これまでの学習を想起させる。</p> <p>☆課題に対する解決方法について、根拠を明らかにして、提言している。(思④行動観察、振り返り)</p>
<p>3 各グループで発表し、まとめたことを全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表に出てきた課題は、私たちのグループにもいえることだな。 	<p>◇他グループの課題を聞くことを通して、自分たちのグループにもつながる課題を見付けることができるようにする。</p>
<p>4 本時の振り返りをする。</p>	<p>◇話し合ったことや今年度の取組について1・2年生に分かりやすく伝える必要性を確認することで、次回以降の学習に見通しをもつことができるようにする。</p>

中学校3年生 「福富提言 ～ 福富のよいよ未来 ～」

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月以降	
生活	昨年度の取組についての確認・今年度のテーマ決め	グループ編成・情報収集（他地域の取組に学ぶ）	仮説の設定・検証	○ 子育て世代にとって、住みやすい町づくりを目指す。 ☆「集まれ！福富っ子」の活動について、生涯学習支援センターの方にお話を聞き、取組にスタッフとして参加する。	ジャムボードを使って、今後の取組について協議	○ 取組に参加しての気づきや感想をもとに、自分たちにできる取組について再度検討する。	☆「子ども食堂」の取組に参加。 ○「子ども食堂」のチラシを作成する。	○「子ども食堂」のチラシを掲示してもらう。 	○ チラシの効果や今年度の取組を振り返り、成果や課題をまとめ、次年度の取組に生かす。
野菜				○ 福富で生産されている珍しい野菜（マコモタケ）を使ったお弁当の販売を目指す。 ○ 企画書を作成する。		☆道の駅訪問①（企画書提出） ☆道の駅訪問②（今後の流れを確認する。）	○ お弁当のポップ、アンケートの作成。 ☆道の駅訪問③（お弁当の内容について検討する。）	☆道の駅でお弁当の販売開始。 ○お弁当、野菜に関するアンケートを実施する。 	○ アンケート結果や今年度の取組を振り返り、成果や課題をまとめ、次年度の取組に生かす。
住まい				○ 福富町の魅力を伝えることを通して、関係人口の創出、移住者の増加を目指す。		☆元東広島定住サポートセンターに勤務されていた方にインタビューする。（移住に関して）	○サイクリングマップを作成する。	○サイクリングマップを完成させる。 	○マップの効果や今年度の取組を振り返り、成果や課題をまとめ、次年度の取組に生かす。

学校運営協議会の方々への発表・指摘いただいた点をもとに、成果と課題について協議

地域社会の一員として、自分たちにできることを考え、取り組もう！

設定した仮説を検証するために考えた取組を実行するにあたって、地域の方々に協力していただく必要がある。社会的な視野で取組における効果などを明確にするとともに、アンケートを実施するなどして、成果や課題を明確にする。

< 生活グループ >



どんぐり子ども文庫 SATO★ふくとみ
Oどんぐり子ども文庫とは？
子ども食堂のことです。子ども食堂は貧困対策と捉えていませんか？それだけではなく、ここではいろいろな人がくつろげる場を提供しています。だから誰でも参加OKです！
O何をしているところなの？
・親子と一緒に楽しめるイベント（ミニジャックケア、マイバッグづくりなど）
・健康的な食事を提供している
・季節の旬の食材をふんだんに使っておいしいメニュー
目標・新しいことは必ずインスピラムから！
QRコード
大人200円 子供100円 | ミュージックケアは継続中

「子ども食堂」の取組への参加と作成したチラシ

< 野菜グループ >



試食会の様子と販売されたお弁当

< 住まいグループ >



移住に関するインタビューとサイクリングマップ



学校運営協議会の方々に発表し、次年度に向けて成果と課題を明らかにしよう！

学校運営協議会の方々に、今年度の取組や今後の予定について聞いていただく。取組について、様々な視点からご意見をいただくことで改善点などを明確にする。それらをもとに、今年度の成果と課題について話し合っ、まとめ、次年度の活動に生かせるようにする。

福富提言



< 主体性を育む取組 > 昨年度の取組を生かした授業展開の工夫

昨年度の3年生が取り組んだ「生活」「野菜」「住まい」というテーマを継承することで、成果や課題をもとに各テーマにおいて「福富のよりよい未来」を実現するための方向性を明確にすることができた。昨年度の取組をもとに活動を進める中で、課題の解決が容易ではないことを実感していたが、取組の実効性を高めるために様々な情報を調べ、生かそうとする姿が見られた。

< 協働性を育む取組 > 異学年集団を生かした活動

昨年度の取組や他地域の実践事例をもとにしながら、今年度の取組について考えた。様々な案が出る中で、「福富のよりよい未来」につながるのかどうかという視点をもって話し合うことで、グループ内で合意形成を図りながら進めることができた。また、やるべきことも多岐にわたることから、それぞれの得意な分野を生かし、分担して取組を進めることができた。